


製造業、非製造業とも依然として状況は厳しい

11月の情報連絡員報告によると、先月と比較して製造業、非製造業とも僅かながら状況は悪化した。特に非製造業は収益状況、業界の景況ともマイナス50台まで悪化する等、厳しい実態が明らかになった。各業界ともコストダウンに努めているものの、年末需要は振るわず、中国向け輸出量の減少や電気料金の値上げといった景気の悪化要因が山積しており、各業界の今後が危惧される。

【製造業62人、非製造業、88人、計150人の集計】

前年同月比のDI値

項目	全産業	製造業	非製造業
	前年同月比	前年同月比	前年同月比
売上高	 -36.7	 -27.4	 -43.2
在庫数量	 -8.7	 0.0	 -17.2
販売価格	 -17.3	 -14.5	 -19.3
取引条件	 -20.7	 -19.4	 -21.6
収益状況	 -46.6	 -38.7	 -52.3
資金繰り	 -34.0	 -32.3	 -35.2
設備操業度	 -24.2	 -24.2	—
雇用人員	 -18.0	 -16.1	 -19.3
業界の景況	 -52.0	 -46.8	 -55.7

※DI(Diffusion Index)値とは、景気の動きをとらえるための指標です。(−100≤DI値≤100)

DIの計算方法…増加・好転と答えた割合−減少・悪化と答えた割合

【例:調査数「20」のうち好転が「4」、不変が「6」、悪化が「10」とした場合…(4−10)/20×100=−30】



30以上



10以上
30未満



−10以上
10未満



−30以上
−10未満



−50以上
−30未満



−51以下

平成24年
11月

業 界 の 声

製 造 業

集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
食料品	中華麺製造業	都外の安売り製造業者の進出による影響が大きい。
	製粉業	麦の輸入制度の変更が予想され、業界には困惑が広がっている。今後、政府との条件闘争となることが予想されている。
繊維・同製品	帽子製造業	秋冬物の動きが11月に入り活発となってきた。寒暖の差が寒さを強調しており、人工皮革やカシミア製といった防寒用の帽子の売上増加に繋がった。今後もこのペースが続くことを期待している。
	ネクタイ製造業	5月から10月まで続いたスーパークールビズ期間中の売上は、6ヶ月平均で前年比の94.2%となった。さらにクールビズ開始前の平成16年の売上と比較すると僅か52%に過ぎない結果となった。
	帆布製品製造業	組合員の業績は3ヶ月連続で低迷している。東日本大震災の発生により受注量が大きく減少した昨年と比較しても、今年はさらに悪化している。イベント関連といった大きな引き合いはほとんど無い。
	洋服製造業	11月は秋冬物の追加発注がなく、春物もシーズンに近づくまで発注が無い状態で、組合員の生産は停止したも同然であった。
	ニット製品製造業	今月倒産したニット製品製造業者の事例は、「取引先が極端な円高により海外生産にシフトしたため売上が激減し、従業員のリストラを行って事業継続を図ったものの、成功に至らなかった」という流れをたどった。今後こうしたケースが増えることが懸念されている。
木材・木製品	建具製造業	年末を控え仕事量は僅かながら増えているが、需要増とまでは言えない。組合員の減少が続く中で組合は、公共事業における建具の分離発注を要望するなど、業界復活のための取り組みの実施を検討している。
印刷	印刷加工業	前年同月比の売上高は不変であった。年末の動きはあるものの、電気とガス料金の値上げは収益に厳しい影響を与えている。
	印刷業	地元密着型の組合員ほど、得意先の廃業や倒産により売上が減少する傾向がある。このため地域経済の活性化を望んでいる。
化学ゴム	ゴム製品製造業	自動車関連部品を製造している組合員は9月以降、3割から5割まで受注量が減少している。中国での日本車売上の不振が影響していると思われる。また、エコカー減税終了の影響も大きい。
	石油製品製造業	11月は組合員の新規加入があった。
	プラスチック製品製造業	販促用の景品や特殊品の需要を除き、各組合員とも前年同月比と比較して仕事量は減少している。
窯業・土石製品	コンクリート製品製造業	側溝等のコンクリート二次製品の需要が減少している。このため、道路資材の値下げ競争が激しくなっている他、組合員間に受注量の格差が生じている。 若干の売上増加により、収益状況は改善した。
鉄鋼・金属	金属熱処理業	熱処理業界の売上高は、7月までは前年同月比で5%アップとなっていたものの、8、9月に急激に減少し、対前年比10%の減少となった。中国経済の鈍化が影響していると思われる。
	金庫製造業	景況は依然として低迷している。
	ダイカスト製品製造業	取扱品目を問わず、組合員の生産量は減少している。すでに雇用調整を行った組合員も現れている。
	缶製造業	今年の11月は稼働日数が多かったため売上高は前年同月比で増加となったが、1日あたりの平均出荷量では前年同月比5.4%減となった。

鉄鋼・金属	鍍金加工業	前年同月比の売上はやや減少した。自動車関連需要が僅かながら持ち直したことや、スマートフォン等のモバイルデバイス関連の需要が業界をどうにか下支えている。
	鋳物製造業	発注の一部に遅れが出るなど、安定的な生産体制には程遠い状況が続いている。
	建築金物製造業	マンションの着工件数増加等により売上は増加しているが、依然として先行きの不安感は強い。
	電線製造業	需要は回復しているようだが、2番底が懸念される。
一般機械	遊技機製造業	パチンコホールの経営状況が悪化していることから、新台の販売台数が伸びず、売上は昨年とほぼ同様の数字で推移している。
その他の製造	スポーツ用品製造業	武道用品市場が活気を取り戻している。今年度から中学校の体育で武道が必修化されたが、2、3年前から「中学校特需」が顕著になっていた。多くの中学校が武道用品を一通り揃えたため状況は一段落しているが、今後も追加需要が予想されるなど、市場が拡大したことは確かとなっている。しかしながら価格競争が進み、粗悪品も氾濫するなど悪影響も現れている。
	ガス圧接業	稼働率が低下している。建設工事が回復せず、建設資材の単価が下落していることが、景況の悪化に拍車をかけている。
	ネームプレート製造業	中国向けの輸出の減少や円高の影響により、売上が減少している。
	各種製品製造業	自動車部品や半導体関係の受注低迷は長期化する気配にある。

非 製 造 業		
集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等
卸 売	ニット製品卸売業	このところ厳しい寒さによりニット製品の売上げが増加している。ただし、価格競争の激化によりメイドインジャパン製品の前途は厳しい。
	理容用品卸売業	長引く理容業の不況から、業界は閉塞感に覆われている。市場の活性化が待たれている。
	青果卸売業	仕入価格は前年同月比の102.9%と増加傾向にある。
	食肉卸売業	仕入価格が上昇しており、収益を圧迫している。
	美容用品卸売業	ホテル等で行われるパーティー向けの需要は回復しているが、飲食店向けの売上は低調であった。
	医薬品卸売業	収益状況は組合員間で格差が生じている。特に小規模事業者にとっては厳しい年の瀬となりそうである。
	紙卸売業	製紙会社の供給過多や価格競争により紙の販売価格の下落が続いている。組合が抱えている在庫の扱いにも苦慮している。
	電設資材卸売業	首都圏の6月から8月の住宅着工申請数は前年比94%であった。この時期の申請物件の材料納入は10月以降から始まるが、申請数の減少に比例して売上状況は厳しい。ただし、9月の申請数は前年比で10%ほどアップしているため、今後を期待している。
	玩具卸売業	前月と変わらず大きな変化は見られないが、相変わらず厳しい状況が続いている。各組合員とも商談会は終了し、完全に年末体制に移行している。クリスマスと正月商戦には万全の準備で臨みたい。
	木材卸売業	やや荷動きは出ているが、大きな量ではない。小口商いが主体のため忙しさはあるものの、収益には結びつかない。秋需としては、盛り上がり欠けている。
	電線卸売業	工事用ケーブルにやや動きが出て来た。首都圏のビル、学校、病院等の耐震補強用の売上が増加している。ただし、中部や関西向けの売上は依然として低調である。
	再生資源卸売業	古紙市況の悪化に伴い業績が後退し、人員削減を余儀なくされた組合員も現れている。
小 売	木材小売業	11月は2週間に亘ってセールスを実施したため、前年同月比での売上は2割増となった。
	時計・宝飾・眼鏡小売業	組合員の取扱品（時計、宝飾、眼鏡）全般の売上が鈍い。売上があるのは低価格帯の商品に限られている。特に低価格商品を主力に揃え、多店舗化している大型チェーン店の台頭が著しい眼鏡の状況は厳しい。

小 売	鶏肉・鶏卵小売業	景況に大きな変化は見られない。鶏肉相場は徐々に上昇しているが、例年この時期は同様の傾向を示している。一般消費者向けの小売は前年並みであるが、業務用の不振は相変わらず続いている。
	銅製品小売業	廃業した組合員が2名発生した。
	電器製品小売業	家電業界はメーカー、量販店、地域小売店とも苦戦しているのが現状である。LED照明器具等の売上増加に努めているが、他の商品の落ち込みをカバーすることは出来ない。ポスト地デジ商品が現れることを期待しているが、今後ますます消費者の購買意欲が低くなり、近い将来にはさらに状況が厳しくなることが予想される。
	眼鏡小売業	客足の減少が続いている。眼鏡一式の価格の下落が収益の悪化に繋がっている。
	中古自動車小売業	売上は悪化の一途を辿っており、回復の兆しも見えない。12月の都知事選と衆院選後の景気回復を期待している。
	古書籍小売業	読書の秋にちなみ、10月下旬から11月上旬にかけて組合員は各地で古書の即売会を実施している。しかしながら、景況は依然として厳しい。
	衣料小売業	アウター関係の売れ行きが振るわず、売上高は前年同月の水準に達しなかった。
	食器小売業	前年同月比では売上や収益状況に変化はないものの、一昨年と比べると20%程度悪化している。
	文具小売業	消費者は量販店と文具店を使い分けている。量販店で購入し、修理は文具店に持ち込むという図式である。修理は手間がかかる一方で、利益は薄い。
	食品小売業	11月の売上高も前年同月比でマイナスとなっているが、前月に比べて悪化度合いは僅かながら改善している。青果や冷凍食品の売上増が状況の改善に寄与した。年末商戦に向けて弾みがつくことを期待している。また、惣菜部門の強化が改めて見直されている。
	家具小売業	家具小売店の販売状況は依然として厳しい状態が続いている。また、閉店や倒産に追い込まれた組合員も現れている。
	米穀小売業	景況は前月と変わらない。米の収穫量は十分あるにもかかわらず、安い米が流通していないため、販売価格が上昇している。こうした中で、量販店やネット販売では価格競争が行われている。需要に応じた米の生産が行われていないことが大きな原因であり、農業政策に問題がある他、全農の指導にも改善点があると思われる。
	豆腐小売業	廃業者が相変わらず発生している。売上不振と高齢化により厳しい経営を強いられている組合員が多い。
青果小売業	11月は実りの秋であり、家庭菜園で野菜が収穫され、庭先でも果実が実ることから、青果業の売上減少に繋がっている。 おせち料理にも使われるタケノコは、輸入品と国産品の価格差が余りに大きい。国産品の値下がりを望むばかりである。	
商店街	銀座	11月も後半になるとクリスマスのディスプレイが増え、来街者も増加している。また、11月前半に開催したイベントは盛況で、人気企画である「七福神巡り」のために用意した景品2,000個もすべて手渡すことができた。
	赤坂	不況が続く中で、商店街の歩道や車道での客引きがますます増えており、対応に苦慮している。自治体や警察が動いてくれているものの、イタチごっこの状態となっている。
	仙川	飲食関係の集客状況が夜間の時間帯で悪化している感がある。
	目黒	冬物の動きは良いが、全般的な売上状況は厳しい。
サービス	複写業	今期、組合員の多くは設備の拡充を行い、金文字打ち等の内製化を進めている他、人件費の削減を始めとしたコストカットに努めた結果、昨年より好決算を迎える見込みである。しかしながら社員の減少により営業力は低下し、現有顧客のフォローで精一杯という状況も続いている。
	廃棄物処理業	顧客からの処理費用の値引き要請が強まっている。廃棄物の排出量も減少しているので二重に厳しい。
	飲食業	廃業、脱退する組合員の増加に歯止めがかからない状況にある。
	公衆浴場業	環境省が推奨するウォームビズでは特にウォームシェア(人々が一つの場所で暖かさを共有すること)を呼びかけている。このウォームシェアでは公衆浴場の利用が取り上げられている。公衆浴場は広くて快適なだけでなく、個別に風呂を沸かすことに比べて省エネである事が理由となっている。組合ではウォームビズの取り組みに賛同し、ウォームシェアを紹介するポスターを組合員に配布している。また、環境省のウォームビズのサイトには全国浴場組合のバナーが掲載されている。
自動車整備業	前年度に比べ組合員の倒産件数が増加傾向にある。	

サービス	クリーニング業	11月末にクリーニング用の機械や資材の展示会が東京ビックサイトで開催された。業界の不況により年々規模は縮小しているが、予想より来場者数は伸びたようである。来場者の多くは大手クリーニング業者の関係者であるが、個人店からの参加者も増えた模様である。
運 輸	貨物自動車運送業	景気の回復は思わしくなく、荷動きは低調気味である。 全体的に景気は横ばい状態であり、盛り上がり欠ける。エコカー補助金の終了に伴い、自動車関連の輸送量は低下している他、建設関連も低調である一方で、食品等の生活関連品の輸送は現状維持となっている。業界のジリ貧傾向が続き中小規模の事業者の倒産や廃業の増加が懸念される。 中国との関係悪化や海外経済の減速により輸出状況が厳しいことが、運送業界の受注量の減少に繋がっている。
	港湾運送業	東京都は輸出コンテナの放射線検査体制を強化するため東京港のゲートの一カ所に放射線測定器を設置し試験運用を行ってきた。現在までに問題なく運用されていることから、今後はコンテナターミナルの全てのゲートに測定器を設置して本格運用を実施することとなった。また、東京港の貿易コンテナの取扱量は輸出入で4.4%の減少となり、2ヶ月ぶりにマイナスとなった。
建 設	内装工事業	廃業する組合員の続発が懸念材料となっている。

✓ 行政庁・中央会に対する主な要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	主な要望事項
鉄鋼・金属	金属熱処理業	受注量が減少している中で、電気・ガス料金の高止まりが続いていることが、収益の悪化に繋がっている。中小企業への支援策の実施を期待している。
	建築金物製造業	中国との関係悪化は業績に影響している。早期の関係改善をお願いしたい。
その他の製造	ネームプレート製造業	消費増税が行われた際の影響が心配される。中小企業に対する支援策を講じていただきたい。また、染色に使われるアゾ色素について、毒性が懸念されるため業界では自主規制を講じているが、検査費用等の補助をお願いしたい。
小 売	青果小売業	TPPが中小零細企業に及ぼす影響について、公平な立場から専門家に講演していただきたい。
	豆腐小売業	デフレの進行を抑える為の景気刺激策を講じていただくとともに、大型店対策にも力を入れていただきたい。
	自動二輪小売業	一般社団法人全国高等学校PTA連合会は、30年近く続いた高校生をオートバイに乗せない為の取り組みである「三ナイ運動」を終了し、代わりとして交通安全教育を推進することとなった。国や自治体はこうした動きに合わせ、オートバイを否定するのではなく、交通ルールや安全運転の教育を導入していただきたい。
	時計・宝飾・眼鏡小売業	中央会はあらゆる業種の現状を把握していることから、生きた情報を様々な形で発信していただきたい。
サービス	複写業	中小企業への支援策を拡充していただくとともに、中小企業が生き残りを図れる施策や指針を明示した中小企業白書を作成していただきたい。
運 輸	貨物自動車運送業	中小企業金融円滑化法の期限が切れた後、ソフトランディングできるような金融支援策を講じていただきたい。
建設業	内装工事業	オリンピックの招致運動を盛り上げ、招致を成功させることで、国民の元気が出るようにしていただきたい。
	管工事業	新たな政権には景気対策を最優先事項としていただき、デフレ脱却に努めていただきたい。